

仕事と生活の調和を実現

高校時代、三角関数や虚数などの新しい概念で世界が広がり、物理では現象を数式で表せることに感動して理系に進んだ。ずっと働きたいので、産後の制度を条件の一つに、その他さまざまな要素があつて今の職場にたどり着いた。

初めて担当したのは、小さなプレス部品の変更。性能確認のため、試作部門の方に手加工してもらった。ごく単純な三面視と、今思えば基本のなつてない寸法追いの図示だったが、何とか作つてもらえた。小さな部品の

凛としていきる

理系女性の挑戦

互いを高めあう関係に

小さな変更だが、自分の設計部品が出来上がった時はとても感動した。この経験が私の原点だ。

ボディー設計という仕事は、難しく、重く、厳しいが、だからこそとても楽しい。もちろん女性は少数派だが、先人の開拓のおかげで働きやすさはない。一人前になる前に出産育児休暇を迎え、また設計ができるかという不安を抱えながらも、子供が満1歳で復帰。保育園に通う子供は体調を崩すことが多く、急な休暇や帰



初めて担当した車 (RV R)

宅が度々あり、時短勤務では挽回もできず思うように仕事が進まない。子供が万全ではない状態で仕事に行くべきか、大事をとって休むべきか、社会人としての自分と母親としての自分の葛藤が襲う。それを察知しているように理解ある上司、陰でフォローをしてくれている先輩、仕事をしながらも協力し、葛藤をわかってくれる家族。周りの理解と協力のおかげで、仕事も家庭も成り立っている。働きたいから働いているつもりでいたが、

子供ができてからは周りのおかげで働かせてもらっていると感じ、だから、より効率よく働けるようになりたいと思う。まだ模索する毎日だが、この気持ちを実を結び、時短勤務でも一人前に仕事ができるようになるつもりだ。こう思えるのは無事生まれくれたわが子のおかげだと感謝している。働く環境は日々進化しており、産後も働きやすくなつてきている。子供が小さいからこそ効率を高めるよう、仕事へのモチベーションを上げている。親と社員は両立というより、互いを高めあう

関係にあると思う。

すべての働く人が仕事と生活の調和を実現できることを望む。

企画協力・日本女性技術者フォーラム (JWF)

三菱自動車

開発本部車両要素

設計部ボデー設計

谷奥 有希子



＜プロフィール＞08年名古屋工業大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了、同年三菱自動車工業入社。技術開発本部で車両ドア関連の設計を行う。JWF 法人会員。